

古園

福田米三郎

もろもろの虫蝶たちが生きこる古りた雑
草のなかを足で踏んで行つた

その折の酔のまゝなる目覚めよとほく殿殿
の中の一の人の曉に起きる

大なる洋書のページをほらりと開くやうに
信濃は空に向つて夜が明ける

夜明けのやみが薄れるほつかりと姥捨山に
白く一團の花が浮いておた

田の向ふにある田の位置のたしな
白く明け放たれる梨の花